

中1文法の全体像

図解① 文 → 文節 → 単語

猫が窓辺で眠る。

文節

猫が

窓辺で

眠る

↓ さらに細かく分ける

単語

猫

が

窓辺

で

眠る

文節は意味のまとまり、単語は文法上の最小単位として考えます。この文は3文節・5単語です。

問1 図を見て答えなさい。
文は文節に分けられ、文節はさらに単語に分けられます。「猫が窓辺で眠る。」を単語に分けると、全部でいくつの単語になりますか。

図解② 文の成分 = 文節の「働き」

小鳥が 鳴く。

主語
小鳥が
何が・だれが

→

述語
鳴く
どうする・どんなだ

主語 述語 修飾語 接続語 独立語

「主語」「述語」などは品詞名ではなく、文節が文の中でどんな働きをするかを表す名前です。

問2 正しいものを選びなさい。
文の成分は、文の中での働きによって分けます。次のうち文の成分の名前はどれですか。
ア 名詞／**イ** 主語／**ウ** 動詞

図解③ 品詞 = 単語の「種類」

単語

自立語
名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞

付属語
助詞・助動詞

ポイント：「彼」「これ」などの代名詞は、10品詞では「名詞」に入り、名詞の種類として「代名詞」と分類します。

問3 正しいものを選びなさい。
品詞は、単語を性質や働きによって分けたものです。次のうち付属語の組み合わせはどれですか。
ア 助詞・助動詞／**イ** 名詞・副詞／**ウ** 副詞・連体詞

ミニ確認

問4 空欄に入る言葉を書きなさい。
「主語」は文の中での働きを表す分類で、「名詞」は単語の種類を表す分類です。単語の種類による分類を何と
いいますか。